

ピアニストは
火の鳥になる

鈴野しずね

なんつうか、頭がすっごい疲れてる、年末あたりからずっと。

脳みそ取り外したい。

そんなさなかの12月28日には、上原ひろみさんのツアーファイナルに東京国際フォーラムに行ったんだけど、

それはそれは素晴らしく凄いライブだったんだけど、

自分用の覚え書きでさえ、書けないままずっと来てしまった。

脳みそが、考えるのを、ずっと拒否している。

まるで思考回路への電源供給が、完全にストップしてしまった感じ。

そんな日々が過ぎあつという間に年明けしてしまい、しばし。。。

ようやくこのライブの、感想というか自分の心のスクリーンに映し出されたイメージを、すこし。。。

赤い衣装の上原さんは、束ねた髪にも、赤い羽のようなエクステのような赤が混ざっていて、その姿で演奏し続ける彼女は、まるで火の鳥のようだった。

サイドのスクリーンに映った彼女の後姿には、飛びたくてうずうずしている翼があるように思えた。

そして何度か、「あ、飛んだ！」と感じた瞬間があった。

その翼を羽ばたかせてふわっと浮いて、音楽の上昇気流に乗った火の鳥が、大空を自在に舞っているような気がした。

そこからはいったい何が見えるのだろう

彼女が見ている景色は どんなふうなのだろう？

彼女の目を借りた私に見えたのは 広大な砂漠だった

大空の上の上から見おろした 黄色味がかかった虚しいグレーの中を
燃えるような色の鳥が飛んでいた

何百年も 砂漠に置き去りの砂時計

流れ落ちたその砂は

砂漠の砂と混ざって もはや見分けがつかない

そんな砂時計に 用は無い

砂漠の女王に くれてやれ

まとわりつく砂を振り払ったら

ここから出て行こう
砂時計なんか いない

いのちは 不死鳥

やがて火の鳥は 優雅に自分の居場所に着地した
無邪気な笑顔と 温かくピュアにきらめく涙とともに

ほんとうに素晴らしいライブだった。
こんなライブを観ることができてとっても嬉しかった。
上原ひろみさん、どうもありがとうございました。

上原ひろみさん目当てで、「東京JAZZ」東京国際フォーラムに行ってきた。

ひろみさんってやっぱすごいな！！！！！！

最後のラスベガスをテーマにした3曲を聴いていて、彼女の演奏に、きらびやかさっていうか華やかさが加わったような気がした。

もともとあったのかもしれないけれど、去年のコンサートではそこまで気がつかなかった。

ラスベガスってことで、私はそんなふうにしたのかな？

そして相変わらず、いったいなんでそんな弾き方ができるの！！？？？っていう凄い演奏で。

人間ワザとは思えません。

でも彼女は、「どう？すごいでしょ！！」とひけらかすのではなく、押し付けるのでもなく、ただピアノと誠実に向き合い、弾きまくっているだけ。

だからこそよけいに、その凄さとピアノへのピュアな気持ちが伝わってきて、これを書いている今も胸が熱くなる。

彼女から生まれるピアノの音1つ1つ全部に、言葉があるように思えた。

そして、どんなに早弾きしても、1つの音から次の音にいくのに、1つのストーリーがあるように思えた。

そのたくさんのストーリーがあつまって、1曲が作られているように思えた。

壮大な叙事詩って感じがした。

そして時にはかわいい。

何曲目だったか、ちょっとかわいらしい部分があって。

あの時確かに彼女の弾いた1音は、いたずらっぽく笑いながら「ねっ」って言っていた。

そして曲の最後もピアノの音が「ね、ねっ」って言っていた。

あああ、曲名がわからない。

この曲、もう一回聴きたいなあ！！！！！！

彼女の、自分の全部をたたきつけるような躍動感にあふれた曲は、もちろん言うまでも無く素晴らしい。

でもアンコールでやったちょっとスローな曲も素晴しかった。

彼女の弾く音色のうねりに、自分の心が震え始め共鳴していくような気がした。

涙が出た。

なんでかわからないけど、涙が出た。

気持ちがわし掴みにされそして、、、、あああ、うまく言えない、あの感覚。

もうたまらなかった。

その時

私の何が振動し始めたの？

私は何に共鳴したの？

ああ、わからない、

でも確かにそうだったんだ

なのに掴めない、それが掴めない、、、

そしてMC。

あんなにすごい演奏をする人なのに、MCは苦手らしく。

でも、素朴な感じでそしてほほえましくて、無邪気でたまらなくかわいい人だった。

最初のMCで、「ここのケータリングは世界一おいしくて、とってもうれしいです。」

半ばのMC、「今回1人でやるということで、いつもならMCではバンドメンバー紹介という奥義がつかえるのですが、今回は私1人なのでそれが使えなくて。

5000人対1人ってことで、、、。

いつか、お客さんに、頑張れ～と言われたいようになりたいです。」

もちろんここで客席から「頑張れ～」の声。

温かい雰囲気の会場。

なのに「だめ～」というかわいらしい子供の声。（なぜ？笑）

「ダメ出しされてしまいました。」という彼女に、客席は爆笑。

なんてかわいらしい。

ほんとうに楽しく素敵なコンサートだった。

でもやっぱり1時間じゃ、物足りない。

もっといっぱい彼女の演奏を聴きたかったな。

ひろみさん、素敵なライブをありがとうございました。

ピアニストは火の鳥になる

<http://p.booklog.jp/book/18418>

著者：鈴野しずね

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/shizushizu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/18418>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/18418>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.